

# MILCA

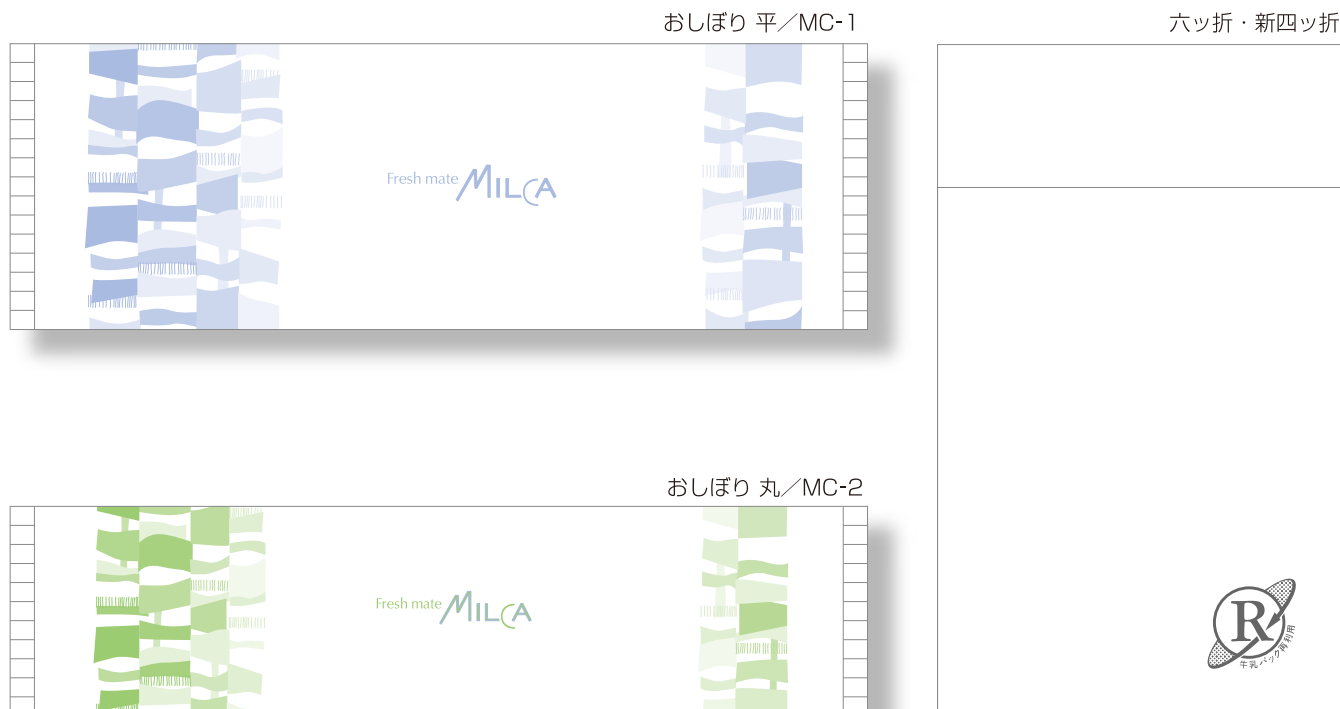
Fresh mate

ミルカシリーズ

「ビジネスを通じて環境に貢献する」大黒工業株式会社からのご提案です！

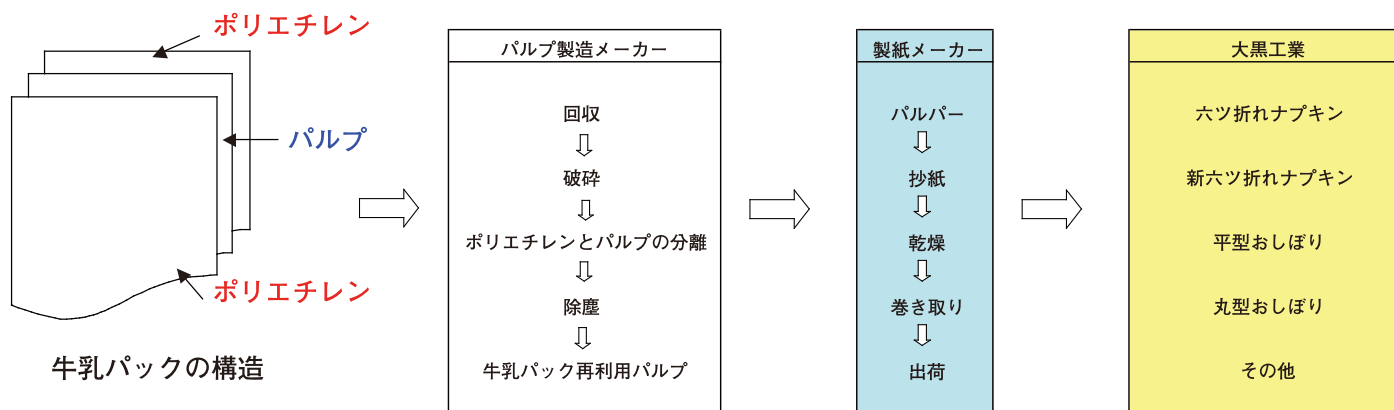
捨てるより  
リサイクルが  
気持ちいい

## 商品イメージ



※実際の印刷色とは異なります。

## “MILCA” 製造工程



●ポイント 牛乳パックの真中のパルプのみを再利用するため、再生紙でありながら食品紙として利用ができます。

## ”使い捨ての商品ほど、環境に配慮した商品を提案すべきだ

大黒工業は再生紙の利用促進はもとより、パルプモールド事業に本格参入し、リサイクルが困難な商品の脱プラスチック化を促進してきました。また、業界に先駆けて非木材紙を利用した商品開発を展開してきました。バガスやケナフなどの利用がそれです。バガスはサトウキビの絞った後の残渣（ザンサ）で、未利用資源の有効活用を促進します。ケナフは、アオイ科の草の一種で成長過程で大量の二酸化炭素を吸収し、土中に固定化します。いずれも、木を切らない森林保護を目的として採用し、地球温暖化防止に少しでも役立てようと考えています。

## ”もっと、みんなが分かりやすい提案ができないか”

市民が生み出し、創りあげてきた牛乳パックの再利用運動は、スーパーや生協などの量販店店頭回収ボックス設置によって、一般市民の間に飛躍的に定着しました。そして牛乳パックの回収は、子供からお年寄りまでみんなが関われる活動であるため、リサイクルの象徴として取り上げられてきました。牛乳パックを再利用したナプキンやおしぼりは、きっと身近な提案として消費者の支持を得られると確信しています。この新商品を通じて、消費者も循環型社会の一員であることを実感していただき、ともに地球号のパートナーとして進化していきたいと思えます。

**大黒工業は”MILK CARTON”を提案します。**

## 「紙パックリサイクルは、当たり前・・・」

スーパーの店頭では、紙パックの回収ボックスが設置されており、環境意識の高い消費者はリサイクルは当たり前となっています。また自治体による紙パックのリサイクル率も着実にアップしています。平成14年度には1,849市町村が参加しており、実施率は57.2%になっています。

家庭系回収紙パック(t)	40,500
学校給食牛乳回収紙パック(t)	4,800
紙パック損紙(t)	23,800
<b>国内紙パック再生受入総量(t)</b>	<b>69,100</b>

### 最高グレードの牛乳パック再生パルプを使用しています

大黒工業株式会社の協力企業である牛乳パック再生パルプの製造工場は、1970年創業の歴史のある企業で、年間、印刷メーカー等発生産業系15,000t、回収牛乳パック5,000tの再生パルプ化を実現しています。これは国内のミルクカートン古紙の発生量の3割弱となります。同社では、牛乳パック再生パルプのグレードを4種に選別し、用途に応じて販売をしています。食品関連の”MILK CARTON”の使用パルプは、印刷カスなどが発生しない同社の最高グレードのパルプを使用しています。

## 牛乳パック再利用マーク「パックマーク」について

### ●1992年に、市民の投票により誕生

牛乳パック再利用マーク（以下「パックマーク」と呼称）は、使用済み牛乳パックを再利用して作られた製品につけられる、牛乳パックリサイクルのシンボルマークです。

パックマークは、1992年の「第6回牛乳パックの再利用を考える全国大会（北九州大会）」において、参加した市民の投票によって選定されました。その背景には、1980年代半ばに始まった牛乳パック再利用運動の発展があります。使い捨て時代を見直そうとする山梨県の主婦によって、「物の大切さを子供たちに伝えていきたい」という思いからスタートしたこの運動。

牛乳パックという身近な素材を扱う環境保護運動であることから、市民の間に急速に浸透し、全国的な規模で牛乳パックの回収が進展してきました。

### ●環境にやさしいお買い物の目印

再生紙や牛乳パックリサイクル品を選ぼうと思っても、どれがその商品か分からないという問題が、再生紙利用が伸び悩んでいる大きな原因の一つである事が分かりました。

それなら、自分たちの手でお買い物の目印になるようなマークを作ろうということになって、制定されたのがパックマークです。

### ●再生紙普及キャンペーンとともに定着

パックマークは、エコマークやグリーンマークのような、いわゆる「エコ・ラベル」の一種といえます。しかし、他のマークと決定的に異なるのは、パックマークが市民の要望に応じて、市民の手で作れ、市民の手で育てられてきたマークだということです。パックマークは、中学校の社会科教科書や全国各地の自治体のパンフレットにも登場しています。さらに、新聞などでもエコマークなどと並んで取り上げられるなど、今やパックマークは、社会的な認知を受けたエコ・ラベルのひとつとして、すっかり人々の間に定着しているのです。

